

リスクコミュニケーション推進に関する取組の今後の進め方について (論点メモ)

ExTEND2005 においてこれまで実施されたリスクコミュニケーション関連事業の取組については、資料 1 でまとめたとおり、以下のような成果と課題が挙げられる。これらを踏まえ、今後の進め方を検討する。

1) 野生生物観察事業について

成果：自然に親しむという点では一定の役割を果たした。

課題：

- ・内分泌かく乱作用、化学物質との関連という観点は十分でなく、趣旨が明確でない。
- ・同趣旨の他事業と重複している部分があり、環境省の事業として整理が必要である。

今後の進め方について

- ・平成 22 年度は、これまでの事業成果の活用として COP10 と連携し、同サイドイベントへの参加等を検討してはどうか。
- ・野生生物の観察事業は、化学物質の内分泌かく乱作用との関連を明確にすることが難しいため、今後は知見や既存のネットワークを有する他部局との連携に重点を置き、この中で普及啓発等の取組を進める方向が良いのではないかと。

2) ホームページについて

成果：一定のアクセス数も得られており、情報提供の媒体として役割を果たしている。

課題：

- ・ホームページのタイトル「ED サイト」が、別の意味の検索語と誤解され、必ずしも内分泌かく乱作用に関する情報を求めている者に提供されない可能性がある。
- ・これまで十分なユーザーの情報が得られていないため、改善に当たって、何が求められているかを十分に把握できていない。
- ・「公式サイトとは異なる中立的なサイト」という当初の位置付けはあるが、作成主体が曖昧である。

今後の進め方について

- ・タイトルについて、環境ホルモンという用語の使用も含め、分かりやすいものを検討する必要があるのではないかと。
- ・既存ページの充実化を図ることとし、これを今後のリスクコミュニケーションの軸としてはどうか。具体的には、新規ページ（子ども向けページ、双方向ページなど）の作成をユーザーの属性や要望を把握した上で、必要に応じて検討していくこととしてはどうか。
- ・作成主体と環境省との関係をより明確に示す方法を検討することとしてはどうか。

3) シンポジウム等について

成果：内分泌かく乱作用に関する有益な情報提供の場となっている。

課題：

- ・本シンポジウムでは専門家による講演が多く、一般市民からの意見を受ける機会が少なかった。
- ・多くの参加者を集めるための周知等が不十分だった。
- ・現在の予算では、同規模のシンポジウムを開催することは困難である。

今後の進め方について

- ・シンポジウム等の開催については、時宜に応じて検討することとしてはどうか。

4) その他

- ・リスクコミュニケーション関連予算自体が圧縮されており（参考）、事業全体の方向性を明確にした上で、効率化（事業の重点化、他部局との連携）を図る必要があるのではないかと。

（参考）

リスクコミュニケーション関連予算の推移

（単位：百万円）

17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度 （政府原案）
52	67	70	66	11	4

内分泌かく乱作用関連予算の推移

（単位：百万円）

17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度 （政府原案）
751	546	460	430	267	259